

氏名	鈴木玲子	部署	看護学科	職名	教授
研究分野	人間工学 看護技術教育 看護教育 緩和ケア				
学位	修士（リハビリテーション）				
学歴	1999年筑波大学大学院教育研究科（カウンセリング専攻）修了、2015年日本大学大学院理工学研究科（医療・福祉工学専攻）満期退学				
経歴	1992年東京女子医科大学看護短期大学助手、1998年東京女子医科大学看護学部助手、2000年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、2005年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教授、2007年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授、2009年埼玉県立大学保健医療福祉学研究科（前期課程）准教授、2011年埼玉県立大学保健医療福祉学部および保健医療福祉学研究科教授、2013年埼玉県立大学地域産学連携センター副所長、2015年埼玉県立大学保健医療福祉学研究科（後期課程）教授、2016年埼玉県立大学学長補佐、2017年埼玉県立大学副学長・研究開発センター長(2021年3月まで)				
所属学会（役職）	日本看護研究学会（査読委員）、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会(理事・編集委員長)、日本人間工学学会、日本人間工学会関東支部（幹事）、日本ヒューマン・ケア心理学会、日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本看護技術学会、日本看護学会				

【2022年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	新しいIPWを学ぶ: 利用者と地域とともに展開する保健医療福祉連携	共著	あり	中央法規出版、306	鈴木玲子（第1章）、埼玉県立大学編集	2022.4.20
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会学術研究助成基金助成金（基盤研究(C)）			ポジティブ・ヘルスに資する若年者向けヘルスリテラシー育成プログラムの開発	研究代表者	2022.4～2026.3
2	文部科学省・日本学術振興会学術研究助成基金助成金（基盤研究(C)）			中堅看護師の教育力深化を目指したアクティブラーニング型研修の開発と評価	研究代表者	2018.4～2024.3
3	文部科学省・日本学術振興会学術研究助成基金助成金（基盤研究(C)）			小グループ学習法における総括的評価に資するピア評価の確立	研究分担者	2019.4～2023.3
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	成人看護学Ⅰ（総論）	○	8	国内外の成人保健の動向を意識して授業を展開し、理事長の特別講演では医療界の最新情報の提供も取り入れた。講義は遠隔授業のアクティブ・ラーニングで実施した。		
2	成人看護学Ⅱ（方法論）	○	8	ゴードンの機能的健康パターンを用い看護診断を事例学習を通して教授し、また脳神経系に焦点を当てたフィジカルアセスメントの演習を実施した。		
3	成人看護学Ⅲ（周術期）	○	7	周術期看護の事例学習の指導、日帰り手術、生殖機能障害に対する周術期看護の講義を実施した。		
4	成人看護学Ⅳ（クリティカル）		4	広範囲熱傷、胸部外傷、重度喘息に対する看護の講義にアクティブ・ラーニングを取り入れて実施した。		

5	スタートアップセミナー		15	医療情報のエビデンスに関する講義企画を含め、対面で講義やグループ学習による演習を実施した。
6	フィジカルアセスメント（大学院）	○	5	臨床推論習得に向けた教育プログラムを検討し、複数の講義担当者との調整を図って授業を実施した。今年度は臨床推論の演習も取り入れて、より実践的な授業展開を実施した。
7	基礎看護技術・看護工学（院・前期）	○	15	受講者なく開講せず。
8	臨床看護開発論（院・後期）		2	受講者なく開講せず。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	成人看護学Ⅲ（周術期）	○	4	周術期の観察方法について、シミュレータを活用して身体観察の具体的方法を対面授業で教授した。感染対策に留意した演習の実施に配慮した。
2	成人看護学Ⅳ（クリティカル）		4	クリティカル場面で用いられる気道確保と人工呼吸器装着時の看護技術を対面で教授した。感染対策に留意した演習の実施に配慮した。
3	成人看護学Ⅴ（慢性看護）		4	事例を用いた看護診断学習を小人数でのグループ学習でファシリテータとして学生を指導した。
4	看護研究		4	「実験研究」「研究倫理」についての講義を担当した。今年度はオンライン授業で講義を行ない、講義録画はオンデマンド教材として学内ネットワーク内に掲載した。
5	基礎看護技術・看護工学演習（院・前期）	○	15	受講者なく開講せず。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	成人看護学実習Ⅰ		2022.5～2022.6	学生の臨地での学習経験を優先して臨床実習先との調整を管理した。科目責任者と相談して実習欠席者の対応などを行った。
2	成人看護学実習Ⅱ		2022.5～2022.6	科目責任者と臨床実習先の調整を図り、実習環境を整えながら、臨地での実習指導を行った。また実習非常勤には、OJTでの教育指導や助言をするなど教育運営のマネジメントに務めた。
3	総合実習		2022.7	科目責任者と臨床実習先の調整を図り、実習場の確保に努め、学生の実習前準備についての指導を行った。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2022.4～2022.12	主指導	2名
2	修士論文	2022.4～2023.3	主指導（指導教員）	1名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	文部科学省・ウイズコロナ時代の新たな医療に対応できる色湯人材養成事業（令和3年度補正）「メニュー2A実習等に資するシミュレータなどのDX設備整備」補助金	2022.4～2023.3	補助金獲得後、運営責任者として購入備品の調整を図り、臨床推論を高めるため看護診断学習やシミュレーション教育手法の開発の検討、そして報告書の作成を実施した。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	研修会のインストラクター	自治医科大学附属さいたま医療センター	「エデュケーションナース研修」	2022.10～ 2023.1
2	研修会の講師	公益法人埼玉県看護協会	「看護研究の基礎」	2022.5
3	研修会の講師	公益法人埼玉県看護協会	「看護研究の進め方」	2022.6
4	研修会の講師	公益法人埼玉県看護協会	「看護研究の実践」	2022.6～2023.3

(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期	
1	埼玉県ナースセンター事業運営委員会	委員	2019.2～現在	
2	一般社団法人 日本人間工学会関東支部	幹事	2020.6～2022.06	
3	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会	理事・編集委員長	2021.4～現在	
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	埼玉県朝霞保健所	新型コロナウイルス感染症対策に係る保健所業務の支援	2022.8～2022.9
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	入試委員会		2022.4～2023.3
2	全学的委員会及びセンター業務等	入試委員会業務：高等学校訪問（1校）		2022.4～2023.3
3	学生支援	2年次学生の担任長として担任教員への助言や相談などマネージメントを実施した。担任学生に対しては、就職支援と国家試験対策の各事業の計画・実践を行った。		2022.4～2023.3
4	大学広報活動	高等学校出張講座（2回）		2022.6～2022.7
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			